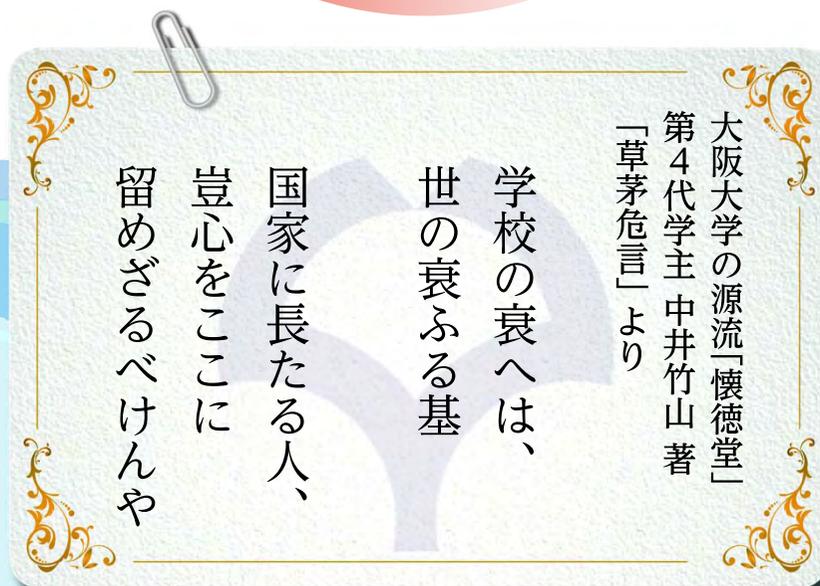


大学の研究力強化 について

——大学執行部としてチャレンジしたことをもとに——

文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会(第49回)



西尾 章治郎
大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

2012年10月24日

近年の研究力強化にかかわる状況変化

運営費交付金
(基盤経費)
の削減

- 大学における教育研究は、長期的視点に立って継続的に行われることが肝要
- 学術の多様性を維持・向上させるとともに、優れた人材を社会に送り続けることが重要

大学における教育研究を支える基盤的経費である**運営費交付金の安定的な確保**が最も重要

間接経費の
削減

研究を推進するための「運営上」大切な経費

競争的資金

【直接経費】

研究を実施するため研究に直接的に必要な経費

【間接経費】

直接経費に対して一定比率で手当され、研究基盤等の整備のための経費

事業仕分け後、間接経費が手当されない場合が増えている!

基礎研究に対する投資は、基盤的経費を含めて充実が必要であり、間接経費を大幅に拡充し、研究基盤を磐石なものにすることが不可欠

「間接経費」を**研究環境整備経費**等に名称を変えたらどうか

米国の競争的資金には、**50%を越す間接経費**が手当されている場合もある

我々の一縷の
拠り所

科学技術基本計画
(平成23年8月19日 閣議決定)
48頁から49頁

科学技術は我が国唯一の競争力の源泉であり、その意味で我が国の生命線。官民合わせた研究開発投資を対GDP比の4%以上にするとこの目標に加え、**政府研究開発投資を対GDP比の1%にすることを目指すこととする。**

大学の執行部としての研究力強化のために取り組んだ施策

Ground Plan

ときめき

基本

責任

チャレンジ支援プログラム

大型研究費に挑戦し、不採択の場合、
つなぎの研究費を支弁

最先端ときめき研究推進事業

「ときめき」をもって最先端の研究
を行う若手研究者に研究費を支援
(45歳以下のグループ研究)

‘飛翔30’若手プログラム

独創的・挑戦的研究を行う若手研究者に
研究費を支援 (37歳以下の個人研究)

大型教育研究プロジェクト支援室の設置

研究者が研究に集中するため、
大型プロジェクト研究の運営を支援

学外の知を学内に呼び込む仕掛け(産官学連携強化)

Industry on Campus から
National Research Center on Campus へと展開

チャレンジ支援プログラム(科学研究費補助金)

より上位研究種目への
チャレンジをサポート!!

趣旨

基盤研究(C)や若手研究(B)に応募している中堅・若手の研究者に対し、**上位研究種目へのチャレンジ補償**について支援する。
これにより、本学全体の科学研究費補助金等の**競争的資金の獲得総額(間接経費の総額)**を増やす。

対象者

[本年度に例えば]基盤研究(C)又は若手研究(B)の交付を受けている研究代表者のうち、平成24年度が最終年度の者であって、平成25年度の基盤研究(B)又は若手研究(A)に研究代表者として応募するとともに、**挑戦的萌芽研究**にも応募する者。
ただし、過去に本プログラムの支援を受けた者は除く。

給付金額
1名あたり
100万円



サポート件数も
金額ももっと
増やしたい!!

最先端ときめき研究推進事業（学内COE事業）

将来に向けて、「ときめき」をもって
研究の厚みを増しておく!!

趣旨

研究大学として世界的に伸びていくためには、短期的に成果が必要とされる各府省の政策主導型の競争的研究のみならず、人類社会の発展のための知の拠点として、**基礎・基盤研究に継続的・長期的に取り組む**、その研究の厚みを備えていることが不可欠

効果

本学の源流である懐徳堂・適塾の精神や、大阪大学と大阪外国語大学の統合を踏まえた総合大学としての幅広い研究分野・特色を活かした**基礎・基盤研究を集中的に推進**することにより、「ときめき」をもって最先端の研究を行う研究大学として基盤的研究力及び研究実施環境を高め、広く国内外に発信する。

「ときめき研究アワード」
受賞者

平成22年度
4グループ



今後も
サポートしたい!!

‘飛翔30’ 若手プログラム (大樹となる苗木を育てておく)

自大学の将来を担う
若手研究者を育成しておく!!

趣旨

本学の各分野における優秀な若手の研究者を選出し、「基本」、「ときめき」、「責任」を強く意識しながら、独創的・挑戦的な研究を行うことができるよう、研究費を支援することで、現在の研究をさらに加速させ、さらに新たな研究テーマを加えるなど、本学の将来を担う若手研究者を養成

必要性

世界をリードする研究大学として独創的・先進的な研究成果を数多く創出することが期待されており、その担い手となるトップレベルの若手研究者を育成していく必要がある。

採択を審査する委員会

審良静男、柳田敏雄、川合知二、原田明、大竹文雄をはじめ本学の第一線の研究者達

分野別採択件数

分野	採択件数
人文・社会科学系	5件
数学・物理系	4件
化学・材料系	6件
工学・情報系	5件
医学系	5件
生物科学系	5件

今後も
サポートしたい!!

大型教育研究プロジェクト支援室の設置

頑張る部局ほど疲弊する。
その状態から脱却したい!!



平成21年度文部科学省研究拠点形成費等補助金（教育研究高度化のための支援体制整備事業）により発足、平成22年度より自主財源で運営

趣旨

大型教育研究プロジェクトの推進には、中心となる部局の教員、事務部に大きな負担がかかり、プロジェクト獲得へのインセンティブが低下するという深刻な問題。その解決のために大学として全学的に支援する体制の確立。また、プロジェクトなどを戦略的に獲得するための企画部門を設置し、外部資金の増額を目指す。

取組事項

1. 採択プロジェクトの運営支援(研究者が研究に専念できる環境構築)
2. プロジェクト支援の人材育成、体制構築
3. 大型プロジェクトの増加に向けた情報分析、応募支援

課題

プロジェクトマネージャー、リサーチアドミニストレータ、技術支援職員などの研究者と事務員との中間的な職種の人員の確保と養成

人員確保のための経費が必要

¥



学外の知を学内に呼び込む仕掛け（産学連携強化）

企業と大阪大学で創る研究講座



Industry on Campus 構想を
実現する新しい産学連携方式



産業界など

共同研究講座

- 2年から10年の設置
- 共同研究に専念
- 知的財産の活用を重視した取り決め
- 出資企業と大学が協議して運営

大阪大学
独自の仕組み
として開始

- 大阪大学
- 出資企業（出向）
- その他の機関

↓ 選考

共同研究講座の特徴

- 大学と企業が協議し、講座を運営
- 産業化を見据えた研究内容・期間の設定
 - 研究内容に合わせた研究要員の配置
 - 知的財産、成果は共有

他制度との違い

- 寄附講座では大学主体による講座運営
- 共同研究では個別開発の研究に留まる

教授又は准教授 1名
(准教授～助教) 1名

企業研究者
ポスドク、大学院生
兼任教授、准教授 など
事務員